助教用

記載上の注意事項

１．履歴書（様式１－１）

◎年の表示については，西暦で記入して下さい。（以下共通）

①学歴：大学入学以降の学歴を記入し，学生としての外国留学は，この欄に記入して下さい。

②職歴：

・研究者として外国留学，研修などはこの欄に記入し，専門に関連した非常勤職なども記入して下さい。

・研究生，専攻生などの研究歴（所属研究室名等も含めて）もこの欄に記入して下さい。

・履歴の空白期間には，説明（自主研修等）を記入して下さい。

③免許及び資格：薬剤師免許等専門に関連した国家資格や免許状について，名称，登録番号及び取得年月日を記入して下さい。

④学位：取得した学位の名称及び取得年月日（取得見込みも含む），授与された大学名も記入して下さい。

⑤-1賞罰：学術活動による表彰を記入して下さい。

⑤-2過去に学生等に対するセクシャルハラスメントを含む性暴力等を原因として懲戒処分等を受けた場

合には、処分の内容及びその具体的な事由を賞罰欄に必ず記入して下さい。虚偽の記載があった場

合には、採用取消や懲戒処分等の対象となることがあります。

２．業績目録（様式１－２）

◎Ａ～Ｆの各項について，新しいものから発行年順に記入し，本人にはアンダーラインを付して下さい。（目録の１枚目から順に頁を付して下さい。）

◎Ａ～Ｃには，既に刊行されたものと，受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中，in press）のみを記入し，共著者名は，業績に記載してある順に全員記入して下さい。

Ａ．原著論文：

・著者の研究成果をまとめたもので，refereed journalに記載された論文を指します。

・総数、筆頭著者数、責任著者数を記入して下さい。

・主論文（10編以内）には○印をつけ，現在までの被引用回数（Web of Science または Scopus を使用し，使用したデータベース名を明記）と掲載雑誌の最新の Impact Factor ( JCRによる)を付記して下さい。

・自身が責任著者となっている場合は，著者名に「\*」を付してください。

Ｂ．総説：展望・講座・解説等を含みます。

Ｃ．著書：学術的価値のある翻訳も含めます。

　Ｄ．特許： a)国内 ，b)国外に分け記載して下さい。

Ｅ．学会発表：a)国内学会 ，b)国際学会 に分け，それぞれ直近10年分を記入し，招待講演と一般講演の区別がつくように招待講演の題目前に（招）をつけて下さい。

Ｆ．外部資金獲得状況：

・a)科学研究費， b)共同研究費及び受託研究費，c)財団等の助成金等 に分けて記入して下さい。

・今まで獲得した全てを記入し，代表者・分担者の別及び直接経費の金額も併せて記入して下さい。（金額は分かる範囲で可）

Ｇ．国内・国外学会活動及び社会活動：学協会役員や学術誌編集委員，国等の委員会委員を記入して下さい。

３．研究業績の概要と抱負（様式１－３）

　　・これまでの研究業績を説明するものとし，その際に「業績目録」に記載した関連する論文等の番号を引用する。抱負と合わせＡ４用紙２枚以内として下さい。

４．教育実績の概要と抱負（様式１－４）

・これまでの教育実績を説明するものとする。抱負と合わせＡ４用紙１枚以内として下さい。応募時に学生等である場合は、ティーチング・アシスタント等を含めて説明しても構いません。

５．管理運営に関する実績（様式１－５）

　　・これまでの所属機関における管理運営上の実績に関する事項を記入して下さい。応募時に学生等であり特にない場合は、大学・学部・研究室等で関わった管理運営に関する事項を説明しても構いません。

（注）１．上記書類は，学内において審査にのみ使用されます。

２．上記書類は，原則としてＡ４版とし，ワード等を用いて作成して下さい。

様式１－１

履歴書

3cm×4cm顔写真（最近６月以内に撮影したもの）

ふりがな いの　　　はな　　　た　　　　ろう

氏名 亥　　鼻　　太　　郎

生年月日 １９〇〇年〇月３１日

現住所 千葉市中央区亥鼻〇〇〇

現職 〇〇薬科大学大学院薬学研究院（○○学研究室）　特任助教

連絡先　　　　　TEL：090-\*\*\*\*-\*\*\*\*　　E-mail：\*\*\*\*@aaa.bbbb.jp

学歴

2006年 4月 1日 〇〇大学薬学部入学

2012年 3月23日 〇〇大学薬学部卒業

2012年 4月 1日 〇〇大学大学院薬学研究科博士前期課程入学

2014年 3月25日 〇〇大学大学院薬学研究科博士前期課程修了

2014年 4月 1日 〇〇大学大学院薬学研究科博士後期課程入学

2017年 3月31日 〇〇大学大学院薬学研究科博士後期課程修了

職歴

2017年 4月 1日 日本学術振興会　特別研究員（〇〇大学薬学部）（2019年 3月31日まで）

2019年 4月 1日 〇〇大学〇〇研究科　特任研究員（2019年 8月31日まで）

2020年 9月 1日 〇〇大学〇〇校〇〇研究所（米国）リサーチフェロー（2021年 3月31日まで）

2021年 4月 1日 〇〇大学〇〇研究科特任助教（現在に至る）

免許及び資格 薬剤師免許（登録番号　123456号）　２０○○年○月○日

甲種危険物取扱主任者（交付番号　1234号）　２０○○年○月○日

学位 博士（薬学）（〇〇大学）　２０１７年３月３１日

賞罰 日本〇〇学会〇〇奨学賞（○○○に関する研究，２０○○年〇月）

日本〇〇学会〇〇賞（○○○に関する研究，２０○○年〇月）

様式１－２

業績目録

Ａ．原著論文

　総数：4報（筆頭著者：1報、責任著者：1報）

①．Suzuki N, Bader D, Inohana T.\* Molecular cloning and expression of chicken cardiac troponin T. Cir Res.2021;65:1246-51. <citation:357(Web of Science), IF:14.467>

２．Grant S, Kobayashi H, Inohana T Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc Natl Acad Sci USA.2021;76:3537-41.

３．Kono M, Ishikawa K, Inohana T. Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res.2020;25:216-9．

④．Inohana T, Electron microscope observations on the fusion of chick myoblasts in vitro. J Cell Biol. 2019;48:128-42. <citation: 57(Web of Science), IF:8.811>

Ｂ．総説

１．亥鼻太郎FACSを用いた細胞間接触とCa2+ シグナルの検索．実験医学2020;11:93-8.

２．Inohana T. Brain damage due to surgical injury to the cerebral vein. Clin Rev Neurosurg. 2019;3:191-5.

Ｃ．著書

１．Woolford J, Inohana T, Warner R. The ribosome and its synthesis. In: The Molecular and Cellular Biology of the Yeast Saccharomyces: Genome Dynamics, Protein Synthesis and Energetics. vol.1, ed. Broach JR, Pringle JR, Jones EW, Cold Spring Habor, NY: Cold Spring Habor Laboratory Press, 2021:587-626.

２．Peltz S, Inohana T, Jacobson P. mRNA turnover in Saccharomyces cerevisiae. In: Control of Messenger RNA Stability ed. Brawerman G, Belasco J, San Diego, CA: Academic Press Inc. 2020:291-327.

Ｄ．特許

　a)国内

　1.出願番号：特許平〇〇〇，名称：〇〇の〇〇における〇〇の測定法，発明人：亥鼻太郎，〇〇〇，出願日：平成〇〇年〇〇月〇〇日

　b)国外

 1. 出願番号：〇〇〇，名称：*〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇*，発明人：Inohana T，*〇〇〇*，出願日：20〇〇/〇〇/〇〇,ドイツ

Ｅ．学会発表（直近10年分とし，招待講演については題目前に（招）を付ける）

　a)国内学会

1.土屋伸也，亥鼻太郎 食道静脈瘤の外科的治療．第81回日本消化器病学会．2021（日消会誌. 2021;54:46.）

2.田辺英男，大竹昌彦，亥鼻太郎，河野雅敏 食道静脈瘤外科的治療における腹水の意義と管理．第82回日本消化器病学会．2020（日消会誌. 2020;56:345.）

3. 亥鼻太郎，野口進一 運動初期の換気亢進の検討．第71回日本生理学会大会．2019（日生会誌.印刷中）

　b)国際学会

（招）1. Inohana T, Kawai A, Ishige T. Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction（PCR）and in situ hybridization.8th International Congress of Human Genetics Symposium.2021（Am.J.Hum.Genet.Suppl.2021;49:210-1.）

Ｆ．外部資金獲得状況：

　a)科学研究費

1. 若手研究（Ｂ）「○○○発現，○○○の合成及び構造形成の解析」2021-2022年

研究代表者，直接経費：400万円

2. 学術変革領域研究（Ｂ）「○○○に関する基礎的研究」2021-2024 年（研究代表者　△△大学　□□□）, 研究分担者，直接経費：550万円

3. 特別研究員-DC1「○○○発現，○○○の合成及び構造形成の解析」2014-2017年

研究代表者，直接経費：100万円

 b)共同研究費及び受託研究費

1.受託研究費　「○○○○○についての研究」代表者（△△製薬）2020-2021年度　200万円

2.共同研究経費「〇〇と〇〇についての研究」分担（研究代表者：〇〇　〇〇）（（株）〇〇研究所））2019-2020年度100万円

c)財団等の助成金等

　　1.〇〇研究財団2019年度研究助成金　研究代表者　200万円

Ｇ．国内・国外学会活動及び社会活動

1.日本薬理学会評議員（2021年～現在）

2. International Brain Research Organization会員（2020年～現在）

3.編集委員：蛋白質・核酸・酵素，Journal of Biological Chemistry（2019年～現在）

別紙様式１－３

３．研究業績の概要と抱負

様式１－４

４．教育実績の概要と抱負

様式１－５

５．管理運営に関する実績（所属機関における管理運営上の実績に関する事項を記入）

　2021年4月　〇〇大学薬学部　学部入試委員、教材開発委員（2022年3月まで）

　2021年4月　〇〇大学薬学部入試委員（2022年3月まで）

　2021年4月　〇〇大学全学ハラスメント相談委員（2022年3月まで）